

公表

事業所における自己評価結果

児童発達支援

事業所名		こどもケアセンターほっと大田（ほわわ）			公表日	2026年 3 月 日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		たくさん動きたいお子さん、ゆっくり活動したいお子さんなど活動内容によってに分けて活動することがあります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		基準人員を遵守し、急な欠員時も他部署との連携で安全な配置を維持しています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	3	1	全館バリアフリー化を完了しており、身体的な安全性を確保。活動内容（動・静）に合わせたエリア分けを行っています。	個別の特性に合わせた「視覚的な構造化（スケジュール掲示等）」の導入を検討し、見通しを持って過ごせる環境を整えます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		毎日清掃を徹底し、お子さまが安心して床に座ったり寝転んだりできる環境です。	季節に応じた装飾や温度管理を行い、より五感に優しい空間を目指します。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		本人の情緒や安全を考慮し、クールダウンや個別学習ができる場所を確保しています。	パーティションの活用など、より「自分だけの場所」と感じられる工夫を検討します。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		正規職員だけでなく、非常勤職員も一緒に考え業務改善に取り組んでいます。	支援技術の更なる向上のため、職員間の事例検討会を定期化し、成功事例の言語化・共有を強化します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		毎年定期的を実施し、現状の課題をスタッフ間で共有する機会を設けています。	評価結果を数値化し、年度ごとの成長をグラフ等で見える化して共有します。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4		外部評価は受けておりません。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修案内は支援者全員にメールでお知らせしています。特に参加してほしい方などには直接声をかけ、勤務調整も行います。	案内に気づかない方もいるため、事務所の壁に掲示するなどの工夫が必要と考えます。
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		ホームページに公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		定期的なモニタリングを通じ、お子さまの小さな変化を見逃さないよう努めています。保護者様の想いとお子さまの得意なことを掛け合わせた目標設定を行っています。	アセスメントツールの標準化を図り、スタッフ間の評価のばらつきを抑えます。お子さま本人の意思（「好き」や「やりたい」）をより反映させます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	3	1	お子さんを主に担当する支援者とともに作成を行っています。担当者会議を定期開催し、全スタッフが支援の方向性を一致させています。	全員参加が難しい場合も、録画や議事録の共有により高い共通認識を維持します。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		まだ数名ですが、計画から更に、お子さん本人がワクワクするような活動計画を検討しています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	1	獅子舞や吹奏楽演奏など、本物に触れる機会を積極的に取り入れています。	お子さまの興味関心を広げるため、次年度はハロウィン行事等、より地域に飛び出す社会参加プログラムを拡大します。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	1	必要な項目に沿って、計画立案を行っております。	支援者全体に共有できていないという課題があります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	3	1	活動を中心に考える支援者、個々の利用者の活動内容を具体的に検討するなど、事業所全体で取り組んでおります。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	3	1	季節の行事など盛り込みながら、日々の活動を検討しております。	毎日の積み重ねが成長につながる活動もあるため、毎日実施する内容のものもあります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝ミーティングを行い、支援を行っています。ミーティングに参加できない方は、ミーティング時の記録やLINE WORKSを使用し共有しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	1	話し合った内容をLINE WORKSで共有するなどして共有しています。	送迎や勤務時間の関係で、必ず実施することは難しいのが現状です。お子さんの昼寝時間や帰宅後に定期的に、お子さんの支援を振り返り、共有しています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		LINE WORKSを使用して、お子さんたちの成長や、支援内容の共有、検討を行い日々の支援に生かしています。	お子さんについて話し合いを行った際は記録を残して、共有できるようにしています。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	3	1	主に管理者が参加をして、支援者には情報を共有しています。	通所時間帯での会議も多く、支援者が参加することが難しい現状があります。早めのスケジュール調整など調整していきたいと思えます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	1	適宜、連携をとっております。	地域の障害福祉や教育との連携は不十分で課題となっております。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1	3		お子さんの「今の生活」と「将来の自立」をつなぐ非常に重要な活動です。近隣の保育園等へお互いに行き来するなど、相互理解を深めてまいりたいと思えます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		就学の際には情報提供を行い、お子さんの最善と学校側の支援の限界とを考慮し相互理解を行っております。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	2	2		地域センターからの研修案内は随時共有しています。今後は事業所全体としての専門性向上を目指し、スーパーバイズの受入れ体制を検討してまいります。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4		近隣の保育園のイベント参加はありますが、交流はできておりません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時にお話しさせていただいております。送迎添乗を固定化しすぎないように、適宜管理者も何うなど工夫してまいります。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4		研修の機会は設けておりません。個々の抱える困難さなど個別に対応しております。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		変更時にお伝えしております。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		ご家族だけでなく、お子さんと1対1で話ができる時間を個々に設けるようにしております。		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		作成時にお話しして同意をいただいております。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		お子さんの成長をともに喜び合いながら、これからの課題や困難さを一緒に考えています。	今後も定期的な面談を通じ、ご家庭の不安を一つひとつ解消できるよう、対話を重視した支援を継続します。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	2	イベント時に仲介役で職員が入ったり、利用者同士が仲良しの親御さん同士を紹介したりしております。	きょうだい児支援ができていないことは課題と感じております。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4			管理者が責任を持って対応していますが、窓口の透明性を高めるため、改めて全保護者様へ相談・苦情受付体制の再周知を徹底いたします。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		広報「ぼわぼわ」をLINE WORKSで配信。9割以上の保護者様に閲覧いただき、活動の可視化に努めています。	お子さま個別の「できた！」という瞬間をよりダイレクトに共有できるよう、動画や写真の活用頻度を高めます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4			職員全体が十分留意していると言えるように、教育を行ってまいります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4		町内会や近隣学校との良好な関係を築いており、地域全体でお子さまを見守る体制を構築しています	地域との交流を模索し、インクルーシブな環境（集団生活）への橋渡し機能を強化します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		訓練はそれぞれ担当職員が中心となって、定期的を実施しております。	マニュアルは作成して、自由に閲覧できる状況になっております。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		作成し、訓練担当者とともに実施しております。	出勤日数の少ない職員の参加回数が少ないことが課題です。報告書の確認などで、状況把握は行ってもらっています。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		看護師を中心に、LINE WORKSを使用して新しい情報も共有しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		行っております。 緊急薬の場所の確認も、行っております。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		計画をもとに訓練等の実施を行っております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	1		訓練等の周知は行っておりますが、計画内容の周知まではできていないため課題となっております。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		LINE WORKSを使用しての共有を行っております。再発防止策は、事業所全体で検討しています。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		東京都の研修に参加した支援者から伝達講習や資料の共有を行っております。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4			